

平成28年9月

岡本敏明 学位論文審査要旨

主査 汐田剛史
副主査 長谷川純一
同 磯本一

主論文

Antifibrotic effects of ambrisentan, an endothelin-A receptor antagonist, in a non-alcoholic steatohepatitis mouse model

(非アルコール性脂肪肝炎マウスモデルにおけるエンドセリンA受容体拮抗薬であるアンブリセンタンの抗線維化効果)

(著者：岡本敏明、孝田雅彦、三好謙一、斧山巧、木科学、的野智光、杉原誉明、法正恵子、岡野淳一、磯本一、村脇義和)

平成28年 World Journal of Hepatology 8巻 933頁～941頁

参考論文

1. Clinical usefulness of the ablative margin assessed by magnetic resonance imaging with Gd-EOB-DTPA for radiofrequency ablation of hepatocellular carcinoma

(肝細胞癌に対するラジオ波焼灼術における、Gd-EOB-DTPAを用いたMRIによって評価された焼灼マージンの臨床的有用性)

(著者：孝田雅彦、徳永志保、岡本敏明、程塚正則、三好謙一、木科学、藤瀬幸、加藤順、的野智光、杉原誉明、大山賢治、法正恵子、岡野淳一、村脇義和、柿手卓、山下栄二郎)

平成27年 JOURNAL OF HEPATOLOGY 63巻 1360頁～1367頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、非アルコール性脂肪肝炎（NASH）マウスモデルにおけるアンブリセンタンの肝線維化抑制効果を検討したものである。その結果、アンブリセンタンは肝の脂質代謝や炎症・酸化ストレスを改善しなかったが、肝星細胞の活性化を抑制し、procollagen-1、TIMP-1の発現を抑制した。免疫組織化学染色にて定量的に評価すると有意に肝線維化面積を低下させ、NASHにおける肝線維化の抑制に有用な薬物である可能性が判明した。本論文の内容は、肝臓学の分野で、NASHに対してアンブリセンタンの肝線維化抑制効果を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。